

番号	科	名称	天気	20年度観察数												観察月数	観察数合計		
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
				15	13	10	8	12	9	14	11	9	13	10					
1	カモ	カルガモ															0	0	
2	ハト	キジハト		1	1	1	1	1	3	1			4	2	2		10	17	
3	カッコウ	ツツトリ															0	0	
4	トビ	トビ	VU												1		1	1	
5	効	ツミ	CR														0	0	
6	効	ハイ効			1												1	1	
7	キツキ	コゲラ		2		4	1				4	2	3		4		7	20	
8	キツキ	アカゲラ	NT														0	0	
9	キツキ	アオゲラ	NT	1	1			1									3	3	
10	ハヤブサ	ハヤブサ	VU														0	0	
11	モズ	モズ	VU	1											1		2	2	
12	カラス	カケス								7	2						0	0	
13	カラス	オナガ		8	2												5	50	
14	カラス	ハシホトガラス		3	3	2	2	2	1	2	2	1	2	3			11	23	
15	カラス	ハシブトガラス		4	7	6	8	4	5	4	7	10	3	5			11	63	
16	シジュウカラ	ヤマガラ						2	1						1		3	4	
17	シジュウカラ	シジュウカラ		10	11	15	9	4	9	22	8	10	9	20			11	127	
18	ツバメ	ツバメ		1		3	3										3	7	
19	ツバメ	イワツバメ															0	0	
20	ヒヨドリ	ヒヨドリ		34	9	11	10	2	11	18	19	22	17	10			11	163	
21	ウグイス	ウグイス	NT							1	2	3	3	5			5	14	
22	エナガ	エナガ	NT	1	3				9	12		3	3	2			7	33	
23	メジロ	メジロ		2	2	1	10		8	14	5	15	17	15			10	89	
24	ムクドリ	ムクドリ		4		1	1										3	6	
25	ヒタキ	シロハラ											1	2	1		3	4	
26	ヒタキ	ツグミ															0	0	
27	ヒタキ	ルリヒタキ															0	0	
28	ヒタキ	ジョウビタキ															0	0	
29	ヒタキ	コサメビタキ	VU						1								1	1	
30	スズメ	スズメ			2		2				3		2				4	9	
31	セキレイ	ハクセキレイ									2	1					2	3	
32	アトリ	アトリ															0	0	
33	アトリ	カワラヒワ															0	0	
34	アトリ	シメ		3								2					2	5	
35	アトリ	イカル	NT														0	0	
36	ホオジロ	アオジ		3													1	3	
観察種数 月 / 年				15	11	9	10	7	10	10	9	13	12	11	0			23	



月	20年度 コメント
4	新緑の中、あちこちでシジュウカラが囀っていた。冬鳥のシメや、アオジがまだ居残っていた。渡り途中なのかヒヨドリが多く見られた。
5	シジュウカラが囀り、ヒヨドリが追いかけあう姿が見られた。スズメがイヌザクラに来ていた。ガビチョウが小学校裏の里山スペースで餌取をしていた。
6	木の葉が茂り、鳥の姿が見えにくくなっている中、シジュウカラ、ヒヨドリの声が盛んに聞こえた。シジュウカラは幼鳥の声も目立った。
7	強風の中での観察で、小鳥の出現が危ぶまれたが、シジュウカラの囀りも聞こえ、ハシブトガラスやツバメの幼鳥に出会えた。
8	子育てが一段落したのか、気温が高いのを警戒してなのか、鳥の飛ぶ姿が少ない。久々にヤマガラが姿を見せてくれた。ヒヨドリの幼鳥が現れた。
9	久しぶりに、シジュウカラとエナガの混群に出会えたが、コゲラがいなかった。ミズキの実を食べていたコサメビタキに出会えた。渡り途中と思われ、ここでは初認です。
10	ヒヨドリの鳴声が盛んに聞こえる中、シジュウカラ、メジロ、コゲラの混群が数か所で観察できた。ガビチョウの鳴声も目立った。
11	ヒヨドリが全域で観察された。小鳥の混群との出会いは少なかった。藪の中からウグイス、ガビチョウの音が聞こえていた。ハクセキレイが久しぶりに観察された。
12	冬鳥であるシメ、シロハラを観察できた。30羽ほどのオナガの群れを観察した。メジロ、シジュウカラ、それぞれの群れを数回観察した。
1	ナラ枯れ病の樹木の伐採作業あり。林内が明るくなった。混群に出会えず鳥影少ない中、メジロが多かった。クマザサの中にいたウグイスが珍しく姿を見せてくれ
2	ウグイスが囀りの練習を始めていた。シジュウカラも囀り始めていた。伐採作業で樹木に付いていた虫が地面に落ちたためか、シジュウカラ、メジロの群れが低い笹や地面に近くに多く見られた。
3	

注1: 表の最下段は月ごとの観察種数と年間の観察種数。

注2: 名称欄記号は、2010年度東京都レッドデータ、北多摩のカテゴリー表示。

外来種

観察月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カラハト				1		2		1	15	7	12	
ガビチョウ	1	3	2	1			4	2	1			
ソウシチョウ												
ホンセイインコ												

レッドリスト表示について

名称欄に東京都レッドリストのカテゴリー表示を行った。カテゴリー表示の条件を以下に示す。

2010年版 東京都レッドリスト

対象地域 北多摩の評価による

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅危惧 I A類	CR	ごく近い将来における野生で絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧 I B類	EN	I A類ほどではないが、ごく近い将来における野生で絶滅の危険性の高いもの
絶滅危惧 II類	VU	現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」としての上位ランクに移行する要素を有するもの